

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1291200093		
法人名	(株)相善		
事業所名	グループホームあじさい		
所在地	千葉県松戸市五香西35-3-14		
自己評価作成日	平成21年12月15日	評価結果市町村受理日	平成22年4月6日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	平成22年1月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・18人18色の理念の基、入居者様一人一人が当たり前の生活、自由な考え方を選択出来る様な支援を努力をしています。 ・一人一人は別の人間であり、求める支援も個別に違う事を前程に一つ一つ丁寧に対応しています。 ・入居者様一人一人の能力を見極め、職員は支援するという立場ではなく、入居者様と支え支えられるという双方向の関係性と、共に生きるという関係を大切にしています。 ・入居者様同士、ご家族、職員が喜怒哀楽を共にし、皆が笑顔で生き生きと生活しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>明るく清潔感のある設備の行き届いた建物(1・2階は有料老人ホーム)の3階にある。日当たりも良く見晴しの良い広いリビングには和室もあり、ベランダには季節の花を植える等快適な環境のホームである。クリニックが併設されており健康面でも安心である。一人ひとり違う個人が地域の中で「自由」だからこそ「自立」した生活をして頂きたいとの想いを込めて職員全員で掲げた「18人18色」との理念を日々のサービス提供で実践している。看取りを体験したことにより、入居者一人ひとりのその時その時を大切にしたいケアサービス提供への思いを強くしたとのことであり、全職員が明るく生き生きと入居者と過ごしている姿に輝きを感じられた。</p>

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない 	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない 	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない 	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない 	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない 	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない 	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない 		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	人はそれぞれの個性があり、違ってあたりまえという考えのもと、自由であるからこそ、自立した生活ができるような理念と作り上げています。可能な限り理念に基づいたケアが行えるようにカンファレンス等で検討を重ね、実践につなげています。	一人ひとり違う個性があり、夫々が違う色で輝き、大輪の紫陽花になるようにとの想いから「18人18色」との理念を職員全員で創り上げた。今までの暮らしと同じように「自由」だからこそ「自立」した生活ができるケアサービスの向上にチームワーク良く取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	五香西町会に入っている事により祭りやクリーンデイの開催の情報が得られています。クリーンデイや祭りの参加の定着によりGHあじさいが地域の方に認識して頂けるようになっており、日々の生活の中でも親切にして頂いています。	町会の行事への参加も定着し、町会のクリーンデイ以外にも勝手にクリーンデイと称し、地域の清掃活動も行っている。併設の施設と共催の秋祭りなどに地域の人々も参加している。新たに認知症サポーター講座を開くなど地域の一員としての交流は良くなされている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	松戸市が行っているパートナー講座を活用し、認知症サポーターの養成講座を行っています。地域の方に認知症の理解のきっかけになるよう、今後も続けて行きたいです。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運推会議の参加者が意見を出しやすいよう工夫しています。(座談会のように)そこで出た意見等を運営内容に生かせるようにしています。又、意見のみならず、家族が悩みを話す事で同じ思いの家族からのアドバイス等を聞いたり話したりする場にもしています。	家族・入居者・町会等との参加を得て現状報告・イベント・外部評価・インフルエンザ対策等を議題として2回開催。参加者に意見を言っていただきやすい雰囲気作りを工夫した。町会長から裏の庭でグランドゴルフをしたらどうかなどの提案も頂いた。	・年間の運営推進会議開催予定表を作り、参加者へもお知らせしておく・施設行事と組み合わせる。・外部評価で取り組んでいることと実施状況等継続的に話し合っている議題を設定する。など定期的に開催する工夫をされることを期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	サービスについて不明な点はすぐに市や包括に確認するようにしています。現状報告やアドバイスも頂いています。	市の高齢者福祉課担当者と看取り加算や介護相談員受け入れ等について何度も相談に乗っていただいたり、来所していただいて入居者の暮らしぶりを見ていただいたりと良好な関係が築けている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ全てが理念に基づき意識のもとに拘束をしないケアに取り組んでいます。危険時には随時カンファレンスを行い、身体拘束をせずにその人らしく生活できる支援方法を話し合っています。身体拘束は行っていませんし今後もその方針は変えません。	管理者・職員全員が身体拘束に当たる具体的な行為を良く理解している。18人18色の理念と自由だからこそ自立した生活ができるとの基本方針の下、ユニット間出入りも自由、玄関も施錠しないなど、身体拘束を絶対しないケアを実現している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修積極的に参加し理解を深めています。又、日常的に行われるケアの中でも管理者、その他のスタッフが共同ケアの方法や言葉使いなどにも注意を払っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居時には成年後見人制度の説明を行っています。又、入居後も必要と思われる方法には関係者と討議の上活用に関する支援を行っています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に細かく説明し疑問点に関しては契約後も随時説明するようにしています。改定時には変更点を説明し、サービスの変更合意書をいただいています。重要事項説明書もその都度配布しています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員やご家族を通じご本人の心情を伺ったりご意見箱を設置しその意見も反映しています。運推会議でも意見を伺っています。H21.9より介護相談員制度も利用し、運営に役立てています。	面会時に普段の様子をお話するとともに、昔はどうだったんですか？とご家族に訪ね要望を引き出すようにしたり、運営推進会議時にご意見を頂くようにしている。毎月のあじさいだよりに個々の写真と手書きの手紙を送付、3ヶ月に一度変更ケアプランを判り易く記入して送付している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に職員が話しやすい場を作り、どんな意見でも管理者が聞けるようにしています。又、管理者も現場に入る事により小さな意見でも職員より聞き、運営に反映しています。	管理者も一緒にケアに入っており、仲間としてどんなことでも言い易いし、判らないことにも的確な返事が返ってくる。多少のリスクがあってもダメ出しがない。危ないからフロに鍵かけようか？でもその前にやることあるよね！と皆で知恵を出し合い、任されているからこそ運営を通して実現できる遣り甲斐を感じている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員と出来るだけ話をし、改善すべき点については改善出来る様常に働きやすい環境を目指しています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量に応じた研修へ参加しています。カンファレンスの際や短時間での研修など行っています。今後も職員全体のスキルアップを目指して行きたいです。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	松戸市グループホーム協議会へ加入しており研修や情報交換を行っています。今後は更に事業者間のつながりを強くし情報交換や研修を通じサービス向上へ取り組んでいきたいと思ひます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接の際になるべく多く時間を取りご本人の意向や思いを伺っています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初に相談にいらした時からご家族の立場に立ちお話を伺っています。入居者様の事のみならず、ご家族の思いを受け止め理解するよう努めています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談にいらした時からこれまでの様子を伺い、どのようなサービスが適しているの見極め、サービス利用方法、申し込み手順をお伝えしています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人の能力を見極め、どの部分を支援するのか、又その人の持つ能力をどのように発揮すれば良いのかを入居者様との関わりの中で把握しています。日々状況の変わる中で入居者様が生き生き暮らせるようお互いが支えあうような関係を築いています。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	イベント等では入居者様、ご家族が共通の思い出を持てるように一緒に行っています。又、家で取れた野菜を頂いたり自宅になっているみかん狩りに招待されたり、入居者様、ご家族、職員が1つの輪となる関係を築いています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	携帯電話を持っている入居者様に使い方の説明や操作を支援し連絡が取りやすいようにしています。イベント時にはご家族をお誘いし、共に楽しめる環境を作っています。希望に応じて、スタッフと共に自宅を見に行ったり、ご家族との外出や外泊など積極的にお勧めしています。	友人との年賀状のやり取りのお手伝いをしたり、入居者の自宅にお連れし昔からの付き合いのあるご近所の方とのふれあいを支援したり、友人との携帯電話での連絡の支援をする等馴染みの人や場との関係継続に努めている。長年の馴染みの床屋に行く入居者もいる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	明るく、居やすい場所を提供することで、居室に引きこもることもなく入居者様同士が顔なじみとなり、重度の認知症の方には優しい言葉をかけたり、下肢の弱い方には、私がやってあげるわよ等、生活を共にする仲間としてお互い気を使っています。時にはトラブルもありますが、人が生きていく中での人間関係構築の1つととらえ職員が上手に間に入り、後に嫌な感情が残らないようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡による退去でサービスが終了した場合も、ご家族の思いを受け止めお話を伺う事で、入居者様が繋げてくださった輪が切れる事のないように関係性を大切にしています。又、その他の利用終了に関しても、相談、支援に努めたいと考えています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の何気ない会話、表情、行動などの中から、ご本人の思いや、希望を知る努力をしています。より深く思いを理解する為にご家族にも協力して頂き、一人ひとりの望む支援のあり方を検討しています。	全職員が「私の生活史シート」「私の暮らし方シート」「24時間生活変化シート」等に入居者個々の普段の何気ない会話や仕草・様子等から各入居者の思いや意向をその都度書きこむなど、センター方式を上手く活用して、一人ひとりの思いや意向の把握が良くなされている	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様、ご家族の情報により把握に努めています。ご本人やご家族と何度もお話をし、その方に馴染んだ生活や経緯を把握し、理解するよう努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の行動、会話の中から個々の能力の把握に努めています。能力を発揮できる場所、機会をたくさん提供することで、新たな能力を発見しています。いつもと様子が違ったり、急な状態の変化があった場合にはカンファレンスを開き対応しています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別の記録や、日々の観察に基づいて会議を行い介護計画の見直しを定期的に行っています。その際はご本人やご家族、必要な関係者の意見や希望を反映するようにしています。	アセスメントは介護保険更新時、モニタリングは毎月を基本にしている。毎月ケアカンファレンスを行い、プランの見直しが必要か検討している。各職員がそれぞれ意見を出し合い、計画作成担当者を中心に職員みんなで介護計画を作りあげている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録は事実だけではなく、職員の気づきや、アイデア、今後の課題等も積極的に記入し、介護計画の見直しや、カンファレンスに役立てています。日誌、申し送りノートと併用し情報の共有に努めています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様、ご家族の個々の状況に応じて、支援方法を随時検討し対応しています。集団生活の枠に捉われず個別のサービスを重視しているため支援方法も自然と柔軟な考え方になっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの福祉センターにて行われているイベントのスケジュールを把握して定期的に参加したり、慣れたスーパーマーケットに行っ て安心して買い物が出来たりしています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に併設のクリニックの医師をかかりつけ医として頂いてる為、入居前、契約時等に説明を行い、ご本人、ご家族に同意を頂いています。月2回の往診、必要な場合は他の病院への受診などご家族の希望やご本人の状況に応じて、医師と話し合いをしています。	併設のクリニックから月に2回医師が往診に来る。長い入居者は往診の医師と馴染みになっている。また今も馴染みのかかりつけ医に継続して受診している入居者もいる。受診結果は受診報告書と申し送りノートによって各スタッフに伝えられる。クスリが変わった場合等は、家族に受診結果を必ず伝える。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師に健康管理について普段から相談をして、助言を頂いています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	入居者様が入院した際は必要な情報を医療機関へ提出しています。又、退院に向けて関係者とカンファレンスする機会を設け、きちんと情報を得て安心、安全に退院が出来るようにしています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りの指針を交付し、説明、同意を得ています。ご本人の状況に合わせてご家族、医師、看護師、職員にて重度化、終末期にどのように対応するのか今後起こりうる状況など話し合い、個別に検討しています。そのときに応じた意向の確認を行い、結果を介護計画に反映し、関係者と連携した支援を行っています。	契約時に「グループホームあじさいにおける看取りに関する指針」を説明し、早期から重度化した場合や終末期のあり方について、入居者、家族と話し合いがもたれている。また「緊急時の対応について」「入院時の治療内容」「グループホームあじさいで治療する場合」から選べるようになっている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防訓練の際に緊急時、急変時の対応の訓練を受けています。又、消防署の普通救命講習会にも参加し応急手当の方法も学んでいます。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非難訓練を実施し、併設施設との協力体制をとっていますが、地域との協力体制は築けていません。	スプリンクラーは全居室に備わっている。消防署立ち会いで、「昼間想定」「夜間想定」とテーマを分けて、避難訓練を行っている。併設施設の職員と役割を分担して、避難を行っている。また備蓄も併設施設と一緒に備えている。防災設備は設備業者に定期的に点検してもらっている。	消防署立ち会いの避難訓練実施時に、近隣の方にも参加を呼び掛け、一緒に消火器の使い方を習得する等、いざという時に地域の方にご協力いただける土壌づくりをしておくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー、言葉かけには常に気をつけています。記録物、個人情報にはステーション外には持ち出さず見えにくい場所に配置しています。職員間の会話などにも気を配っています。	個人の尊厳やプライバシーを損ねるような言葉かけや対応については、職員間での会話等も含め配慮するよう常に周知徹底している。個人情報は鍵付きで保管している。記録する時も入居者の見えないところで記入するように配慮している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中での小さな事も入居者様と相談しながら決定しています。個々の嗜好を踏まえ、判断力、表現力に応じた質問、選択肢を用意し自己決定を促しています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活のペースの応じ対応しています。その日1日どのように過ごしたいのか希望を聞き個別に外出や外出していません。思い立った時になるべく行動出来る様、職員間で柔軟に対応しています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望に応じ外部の美容院や床屋へ出かけています。衣類に購入時もじっくり選んで頂けるよう少人数で出かけています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立から買い物、調理、片付けまで入居者様と一緒にしています。個々の入居者様の能力に応じ自信を持って行えるよう支援しています。食事では明るい雰囲気作りに気を配り楽しい時間が持てるようにしています。	理念に「食事は好きなときに、好きなものを」と書かれており、それを実践している。入居者が食べたい物を献立し、入居者と一緒に買い物に行き、調理、片付けも一緒にする。外食もうまく組み込まれ、ファミリーレストラン、すし屋、中華料理店等に行く。また出前も活用し、ピザ、すし、釜飯などを取ることがある。食事を楽しむ支援を良く心掛けている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分は記録し1日の摂取量を把握しています。水分は好みに応じ様々な物を提供出来る様にしています。(ヤクルト、ジュース、ゼリー等)食事摂取にムラのある方は補食や形態を工夫しています。あんぱん、バナナなどの嗜好品も活用しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々のペース、状態に合わせた支援を行っています。状況に応じて不足な所は職員が補っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンやサインを把握し失敗の無いよう支援しています。状態に応じてカンファレンスを開きいつまでもトイレでの排泄が可能であるように支援しています。誘導時間や水分量の関係性なども状況により気を配っています。また、混乱を防ぎ、自立排泄ができるようになるべく同じトイレに誘導するようにしています	オムツ着用者はゼロ。一人ひとりの排泄パターンやサインを把握し失敗の無いよう支援している。状態に応じてカンファレンスを開きいつまでもトイレでの排泄が可能であるように支援している。単にパットやりハビリパンツを使うのではなく、状態に応じてカンファレンスを開きいつまでもトイレでの排泄が可能であるように支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量、食事量、運動量に気をつけ、食物繊維の物や乳製品を積極的に摂っています。なるべく下剤に頼らないように努力しています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入りたい時間に入れるように対応しています。拒否のある方は無理はせず、入りやすい気分になるような対応、声掛けを行い、嫌な記憶が残らないようにしています。そのためいつでも入浴出来る様に準備しています。	入浴はいつでも入りたい時に希望の時間に入れる。基本は最低でも週に3回は入浴する。入浴中に事故が無いように職員が気をつけている。入浴拒否者には無理に入浴を勧めず、入りたい気分になるような対応したり、声かけを行っている。入居者同士が友達になり、一緒に入浴するなどの試みもしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温、照明、音には配慮しています。入居者様に応じた就寝時間を把握し、自然と眠くなるような環境作りに努めています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書は職員がすぐに見れるようになっていました。又、処方の変更や観察ポイント等は随時申し送りをし、個別記録に記載しています。不明な点は医師、看護師に確認をしています。薬を色分けし誤薬防止に努めています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴、嗜好に関する情報を出来るだけ多く把握するよう努め、生活の中で得意なことを生かしたり、好きなことや好きな物に囲まれた生活が出来る様に支援しています。編み物、ゲーム、コーラス、絵画、花を育てたり、外出したり・・・個々の楽しみごとの継続だけでなく、入居者自らがあらたな発見ができるような支援を行っています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	映画やカラオケ等希望があれば対応しています。都合によって行けない場合は後日行けるようにしています。スーパー、レストラン、喫茶店や散歩には日常的に出かけています。また、ご家族に協力していただき、花見やみかん狩り、イチゴ狩り等の季節にあわせた外出支援も行っています。	理念に「思い立ったときが、外出の時」を実践しており、天気がいいから公園へ散歩に出かけたり、買い物に行ったりと入居者それぞれが外出を楽しんでいる。映画館に映画を見に行ったり、みかん狩り、弁当を持って、四季の花がきれいな公園に出かける。歩行困難者は、リフト車で車いすを積んで出かける。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の能力に応じお財布を持ち、買い物ができる様支援しています。又、職員が個々の能力に合わせ対応を変えています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の操作の支援をしています。毎月のあじさい便りに、家族に向けて一言コメントを書いている方もいます。電話を掛けたり、受けたりする支援も、能力に応じて行っています。公衆電話、携帯電話の操作の支援をしたり、希望時にはいつでも電話ができる環境を整えています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様と相談して季節感のある設えをしています。室内の掲示物や装飾は、一緒に作成したり、興味をそそる物になるように工夫しています。	お花や行事の飾り付けをし、季節感を大切にしている。リビングは入居者が集まりやすい空間になっている。リビングの和室で鍋を食べたり、洗濯物をたたむスペースになっている。日当たりの良いリビングになっている。ベランダには季節の花が植えられており、居心地の良い共用空間となっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席の他にソファースペースがあり南側の陽の当たる場所にもソファを置いて静かに過ごせるスペースを作っています。入居者様はそれぞれ好きな場所で過ごされ、一人になれる場所もあり自由にくつろいでいます。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は馴染みの家具や調度品を持ち込んで頂き出来るだけ自宅にいた時と変わらない環境で生活出来る様にしています。そこに住む入居者にとっての居心地の良さを重視し、好みの色、柄、家具の配置などにも着目し、配慮をおこなっています。そのため居室は個性的でありながら、安心感のある空間になっています。	居室には自宅から持ち込んだ、茶ダンス、整理ダンス、昔の自分の写真、仏壇等馴染みの物がある。好みの装飾品など職員と相談し、買ってきて飾る居室もある。布団かベッドかも選べる様になっている。その人の状態に合わせた居室作りになっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所や風呂場等一般の家庭と同じような作りになっており、ご自分で調理をしたり、入浴したりが自由に出来るようになっていきます。一人一人の出来る事、わかることを把握してそれぞれの力に応じ、自立した生活出来るようになっていきます。		